

## 第1回(仮称)惣辺奥瀬風力発電事業に対する[地域環境と共存・共栄できる再エネ事業の形を模索する]会合

- (1)日 時：令和5年2月16日(木) 13:30~16:00  
(2)場 所：十和田市南コミュニティセンター  
(3)出席者  
司 会：学識経験者(社会学)  
参 加 団 体：12団体 26名  
事 業 者：十和田風力開発株式会社(以下 事業者) 8名  
環境コンサル：一般財団法人日本気象協会(以下 JWA) 3名

### 【冒頭挨拶・事業者】

(事業者) 本日はお忙しい中、ご出席を賜り感謝申し上げます。昨年11月22日・23日の2日間、事業計画中間報告会として、十和田市民の皆様を対象に、十和田市の広報及び292の町内会長様宛にご案内をさせていただきました。両日とも約90名の皆様にご出席くださいました。2020年から環境アセスメントを開始し、2021年からの調査内容を踏まえ、景観等を中心に市民の皆様から頂いたご意見に配慮した計画状況をお伝えさせていただきました。計画規模を大きく縮小し、基本計画については、周辺環境との調和を図り、地元と共存した計画づくりを目指すことをご説明させていただきました。両日とも質疑の時間内に全ての質問者に対応できず、また、質疑の内容に噛み合わない部分があり、幅広く市民の皆様からご意見を伺えない状況でもあった。2回目の中間報告会は4月末頃を目指している。これから市内の関係機関に事業経緯を説明し、周知を行う予定である。弊社HPを開設し、市民の皆様に向けてご報告と理解活動に繋げていきたいと考えている。本日の会合は、地域に係る直接的な皆様と事業者が話し合い、課題を整理し、地域にとって発展的な会合になるよう考えている。各方面から色々なお言葉を頂きたい。

(事業者) 案内文書でもお送りした通り、本年1月13日に弊社HPを開設した。本日の議事内容も団体名は伏せた形で後日掲載させていただく。次回の会合では、テーマに沿った専門家や研究者をお招きしたい。事業者の立場だけでなく、皆様からも推薦等いただければ幸いである。

(司会者) 風力発電事業に関して最終的なゴールは合意形成になると思う。合意形成とは、皆様が我慢をしてなんとなく結論が出ることではない。科学的・物理的に解決できるものは解決し、それ以外の科学的に説明できない皆様の思いも表に出していただくことが大切である。本日は、皆様のご意見をまんべんなく伺いできればと思う。テーマの概要は事前に事業者よりお伝えさせていただいている。司会進行の観点と各テーマに関して円滑な議論のため、1分程度で団体の活動概要と将来に向けての方針や目標を確認させていただきたい。

### ◆団体紹介 【※団体・個人が特定される部分に関し、内容を一部伏せさせていただく】

#### [事業者]

・2021年に十和田風力開発は設立された。実績はまだないため、親会社の日本風力開発についてご説明する。日本はエネルギー自給率が低く、石油燃料の依存率が非常に高い。輸入に頼らずエネルギーを生み出すことが創業者の設立目的である。風力は地元の風を使わせていただく事業になるため、地域と共に生きる、地域の発展に貢献するという思いから1999年の創業以来、これまで全国に266基、計32カ所の風力発電設備の開発実績がある。また、内閣府より2050年までに脱炭素社会実現の宣言があった

ことから、カーボンニュートラルに向けた取り組みの一翼を担うために全国でプロジェクト計画を推進させていただいている。

- ・事業者の将来の方針としては、事業区域に地元と共生した風力発電事業を運営することを将来の目標にしている。ここで事業を行う理由は何なのか、地域との共生とは何なのか、合意形成とは何なのか。そういった様々なご意見を頂く中で、まず計画のスタート段階では、牧場と風車の共存は可能であると考え、風況や輸送などを検討した。進めていく中で、様々な団体、個人の方々から事業に対するご意見を頂いている。地域と共に生きていく、地域の発展に貢献するという創業理念にある通り、地域の深い問題を解決すると同時に、事業に対して心配する意見には、可能な限り計画の検討を行い、風力会社として何ができるのかを考え、提案させていただく中で、地域の方々と合意形成できればと考えている。
- ・昨年6月に十和田事務所を十和田市内に構えた。本年1月にHPを開設した。HPを開設することで、幅広い方々に関心を持っていただくことが目的である。地域の課題に対して再エネ業者として何ができるのかを含めて考えさせていただきたい。

#### [団体①]

- ・ガイド活動をしている。十和田湖の魅力をお客様に伝えたいという思いから始まった。
- ・十和田湖の魅力として自然があげられるが、それだけではなく歴史・文化を持っている。十和田神社や十和田信仰の歴史、十和田古道について専門家の先生と一緒に調査研究を行っている。信仰の歴史を打ち出して観光に繋げていきたいと思っている。惣辺牧野の展望は古道と大きな関わりを持っている場所で、十和田信仰を理解する上で最重要ポイントだと捉えている。
- ・惣辺牧野の場所には風車を建ててほしい。

#### [団体②]

- ・十和田には新渡戸の他にも古道という歴史がある。古道には1000年以上の歴史があり、4年程前から調査している。専門家の先生が古道を発見し、中でも重要なのが八戸から十和田神社を目指す五戸道である。十和田神社を重要な地点として捉えている。
- ・将来的には日本遺産、文化と自然を一緒にした複合遺産を最終的な目標に活動している。

#### [団体③]

- ・当初は南展望台から見えなければ良いと考えていたが、最近は世界遺産を目指す考え方が出てきた。そうすると風車そのものが受け入れられない。世界遺産に反すると考えているので作らないでほしい。

#### [団体④]

- ・十和田湖・奥入瀬溪流の世界遺産登録を目指して活動している。十和田湖・奥入瀬溪流は日本の宝、世界に誇れる自然だと考えている。世界遺産登録に至れば保護を続けていくことができ、後世に残せるのではないかと考えている。世界遺産登録は難しいと言われているが、少しでも見込みがあるならと思い活動している。
- ・世界遺産を目指す立場としては、風力は絶対に認める訳にはいかない。西コミュニティセンターで行われた第1回中間報告会でも話したが、稼働終了時に基礎撤去が行われない場合や、自然災害で倒産した

際、地下に埋められた送電線が放置されるような状態は、世界遺産を目指す過程においても大きな問題である。

- ・先日行われた十和田湖奥入瀬溪流世界遺産登録推進フォーラム終了後、「世界遺産登録にあたり、風力の話はどのように考えているか」という参加者からの質問に対して、登壇された講師の方は「再エネの問題に関しては様々な事情があるため、特別なことは申し上げられないが、登録にあたって風力はマイナスでしかない」と回答されていた。

#### [団体⑤]

- ・他の事業者は決定事項の報告のみで双方向の話し合いは少なかったもので、このような機会に感謝している。HPで資料を開示いただいたのも参考になる。
- ・我々の会は自然エネルギーの普及も一つの目標として掲げており、同時に環境の保全も両立させたい。数年前までバイオマスや林業関連のことに取り組んできた。仕事として太陽電池の開発にも関わってきた。それらの経験を活かしてお役に立てることがあればと思い、この活動をしている。

#### [林業関係者⑥]

- ・森林整備事業水準の向上を目指し、林業の生産活動、地域産材の加工流通体制を推進する中で経営基盤の充実を目的としている。製材加工、工事加工品に至るまで一貫した生産管理、販売体制で全国へ展開しようとしている。自然資源を利用した再生可能エネルギーの拡大が期待されている。資源の乏しい日本においてこれらの再生エネルギーは必要だと考えている。

#### [林業関係者⑦]

- ・惣辺・奥瀬風力発電事業については賛成である。
- ・風車運搬のために林道を拡幅し活用するようだが、林業に関わる者としては他の大型車両の通行に影響が出ないように配慮頂き、作業情報は可能な限り開示してほしい。また、大雨などの自然災害が多くなってきているため、工事による土砂災害などについては十分な対策をしてほしい。工事に伴い、保安林等の伐採後は植林・緑化を進めてほしい。地域の森林資源の保全にも配慮してほしい。

#### [林業関係者⑧]

- ・先代から林業に携わっている。木材の伐採・搬出・植林・下刈り事業を行っている。風力発電に関しては諸手を上げて賛成ではないが、反対でもない。どちらかと言えば原発の方に反対である。電気も使いし自然エネルギーに関心はある。騒音や低周波の問題が解消できるのであれば良いと思う。

#### [農業関係者⑨]

- ・組織として賛成反対ではない。現在、十和田市内の畜産農家戸数は減っているが、頭数は増えている。家畜市場において十和田市管内の取引が一番活発で約2割の販売となっている。賛成・反対ではなく、畜産農家のために意見を聞きたいと思って来た。

[畜産業関係者⑩]

- ・十和田市の一次産業において牧場管理をしている。畜産農家の発展に寄与することを目的に活動をしている。最近では飼料の高騰により経営は大変厳しい。既に風車が稼働している場所では、管理棟にはドイツ製の雪上車が2台完備されており、心配ない管理をされている。放牧場にも地代や使用料が入っており、大いに役立っている。

[畜産業関係者⑪]

- ・主な事業は植林事業となっている。事業に対して補助を10年間出している。
- ・収入としては財産区の使用料を頂いている。土地を貸して木を売れば、そのうち2割~3割を収入として頂き、国の方々からも喜ばれている。
- ・10年20年と継続していくために収入のある事をやりたいと思い、風力を推進している。

[畜産業関係者⑫]

- ・明治に自然牧区として始まり、昭和に本格的に組合がスタートした。当時は道路を作るところから始めた。実際覚えているのは、小学校5年生の時に十和田市から牛を追って山に連れて行き、その日の夜には牛を歩かせて帰ってきたことである。今考えればとんでもない場所だったが、時代の流れの中で皆様の協力があって、今の牧場があることに感謝しなければいけない。
- ・今一番危惧していることは、かつてないほど畜産農家が大変な時期に来ていることである。Agreshの2月号を見ても、牛の最高値は122万、去勢牛で92万、子牛で平均61万円である。子牛1頭の餌代で60万円かかるため、農家の手取りは1万円あるかないかである。ただ、そこには放牧手数料などは含まれていない。牧場を維持している側からすれば、このまま継続できるのか。今年の3月で牧場を閉める組合もある。身近なところでそのような状況を目の当たりにしており、発展させなくとも現状の状態の子の世代・孫の世代に繋げていきたいと考えている。経営が思うようにいかなければ、牧場もなくなる。牧場がなくなれば、あの素晴らしい景観がなくなる。そうなれば見晴らしどころか草木に覆われ、行くこと自体が難しくなる。私も歴史が好きである。先輩たちが作ってきた歴史を継承していきたいと思う。そのためにも、そこへ行く道路や環境を整えていかなければならないと思う。歴史を継承しながら、今の時代に沿った開発もしていかなければならないと思う。
- ・毎年6月と10月に環境整備に組合員で行く。その時に、熊が出ることを知らずにキャンプしている人がいた。田代で子どもたちが夏にキャンプをする。牧場でのキャンプを提案したところ、大型バスが行けないところでキャンプはできないと教育委員会に言われた。
- ・市民にたくさん足を運んでもらい、良さを理解してもらいたい。畜産・林業の振興を進めていきたいと思っている。

[JWA]

- ・環境アセスメントと呼ばれる手続きをお手伝いする立場から、本プロジェクトに参加している。手続きの進捗については、現在調査結果のとりまとめを行っており、その結果を元に国・県の専門家の意見・審査によって、周辺環境への影響が回避・低減できているかを今後審議いただくこととなる。
- ・地域理解、地元意見の反映も大事なテーマとなる。今回もそれぞれの立ち位置から、将来の展望に向け

た率直なご意見をお聞かせ願いたい。

- ・本日、それぞれ景観・騒音等の各項目担当として参加しているが、私共がこれまで経験した知見が、今回の議論のテーマで環境配慮の観点から役立つものがあれば、是非話題共有させていただきたい。

#### ◆議事概要

##### 【エネルギーについて】

(司会者) 活動の紹介と将来の考えに加え、風力に反対・賛成・どちらでもない等、色々な意見を伺うことができた。なぜ賛成なのか、なぜ反対なのか、どちらでもない方はどのようなお考えか、ご発言いただきたい。事前に事業者からテーマの説明があったかと思う。4つのテーマに分かれており、比較的後半の方にボリュームがある。エネルギーに関しては10分程度でお話を伺っていただけたらと思う。再生可能エネルギーがこの地域で必要か。また、日本全体で必要か伺いたい。

- (団体⑤住民A) 再エネがこの地域に必要なかといえば、はっきり言って全く必要ない。何故なら、奥入瀬溪流を通して十和田湖の水量が1cmあれば、青森県内すべての電気を賄えるくらいの発電量になるそうである。十和田湖から十和田市まで水力発電所が5か所ある。この地域での要否を考えれば全く必要ない。この事業ができたことで地元の雇用や住民が潤うことも全くない。東北電力に電気を売ってそれが都会の方へ行くことは分かるが、この地域に関する必要性はゼロである。この短い距離に水力発電所が5か所もある。こんな地域は他にない。この地域に必要なはないが、畜産関係の方たちがもう少し収入が欲しいということに、少しは心が揺らぐ。だが、ここで譲ってしまえば自然環境から動植物に関して取り返しがつかないことになると確信している。奥入瀬溪流には4対のクマタカが営巣している。鶺鴒もいる。希少な動植物が絶滅した時、どのように返してくれるのか。もし絶滅してしまったら、新しいプロジェクトを会社で作り再生して返してほしい。
- (司会者) 自然環境については次の所でお話いただけたらと思う。他にエネルギーに関してご意見をお持ちの方はいらっしゃるか。

(団体⑪住民B) グローバルなことを考えると、気候変動や異常気象による災害が年々大きくなっている。パキスタンは国土の1/3を失った。ベネチアも高潮で観光地として機能しなくなった。アメリカでの山火事もあった。IPCCの報告によると全ては温暖化の影響によるものである。私たちは2050年までに気温上昇を1.5℃に押さえなければいけない。風力に限らず気温を下げるためには再生可能エネルギーは必要で、水力・太陽光・風力などを組み合わせた形で温室効果ガスの排出がゼロになる社会を目指している。今、南極の氷が解けている。氷が解けると太陽の光を反射できない。平均気温が2度上がれば台風の威力が4倍になると言われている。経済においても、2040年には再エネを使った自動車でないと輸出できないと言われている。再エネを作らなければいけないと考えている。好む好まないにかかわらずやる必要があると思う。

- (団体⑤住民C) 再エネ導入に関してはその通りだと思っている。2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにすることは、何が何でもやらなければいけない問題だと思っている。ただ、実現する上で環境とどのように共生し、どのように守っていくかは難しい問題である。日本において再生可能エネルギーと言えば、メガソーラーやウィンドファームが話題になってしまうが、実際は色々な方法があり、私はエネルギーの地産地消にもっとフォーカスすべきだと思っている。青森県は大規模な風力と太陽光

を導入し過ぎているのではないかと思う。地域の問題と共存できる形で導入する工夫を凝らしても良いのではないかと考えている。それと同時に日本は省エネの取組みが諸外国に対して遅れていると言われている。これをきちんと取り組めば、エネルギー消費を3割くらい削減できると言われている。原発や石炭火力も減らすことができる。どうして取り組まないのか疑問に感じる。最近発表された政府のエネルギー政策を見ると、石炭火力を強めていくような時代と逆行する政策になっている。様々な環境団体から批判を浴びている。自然エネルギーの導入は間違いなくやらなければいけないが、その方法については考える必要がある。例えば、欧米ではゾーニングという手法があり、日本でも一部導入されつつある。戸建屋根への太陽光導入量は頭打ちになっている。FIT等の制度の問題もあると思う。日本の面積のうち約7割は山林であり、そこに手を付ければ自然破壊につながる。面積のある宅地や水田・畑でソーラーシェアリングができれば、開発行為をせずとも様々なことができる。それと省エネを組み合わせれば、環境負荷を非常に軽くできると考えている。

→(司会者) 再エネについて考えると必ず自然環境や動植物への影響がついてくる。再生可能エネルギー自体はおそらく必要であるとお考えかと思う。地域としてどのようなタイミング・プロセスで再エネを導入していくかが今後のご活動・ご意見に関わってくると理解した。

#### 【自然環境について】

(司会者) 風力発電が自然環境に影響を与えるのではないかと不安や懸念を抱かれていると思う。先程、自然環境についてクマタカのお話があった。それ以外の部分で景観や動植物、騒音についてご意見ある方がいらっしゃれば伺いたい。

→(団体①住民D) 自然環境で一番心配しているのは、惣辺地域が直線距離で2kmと奥入瀬に近いことである。惣辺川の上流にあたる場所もあるはずである。開発中に惣辺川上流で何か起これば、奥入瀬渓流に直接被害が及ぶ可能性があり、心配している。

→(団体②住民E) この事業が20年後に撤収する時、かなり深いところまでパイプが刺さっていると思うが、抜く際の環境への配慮があるか伺いたい。

→(司会者) 開発中に何かあった場合の川への影響と、杭の撤去に関して、もし回答可能であればお願いしたい。今回はご意見をお伺いして次回までにHP上で公開していく形もあるかと思う。

→(事業者) 惣辺川上流での開発は環境アセスメント手続きの中でも重要視している。土砂崩壊や濁水へのご懸念については、国の審査をクリアした上での開発になる。改変区域を必要最小限に抑え、濁水に絡む部分はきちんと対応させていただく。

→(事業者) 手続きの中で審査される事項としては、災害・水害の防止に関すること、水の確保・環境保全に関して国や県の審査で判断される。

→(団体①住民D) そのような答えになると思う。近年は想定外の豪雨が起きている。それに対して安全対策ができるのかということが心配なところである。ある程度国が決めたラインはあるだろうが、それを越えたものが今は起きている。それをとても心配している。

→(事業者) 専門家を入れて行う。

→(団体①住民D) それを超えてくることを心配している。

→(事業者) 杭に関してはこれからボーリングさせていただき、深さ等を決定していく。

→(団体①住民F) 団体①住民Dさんの質問に答えていないと思う。

→(司会者) どれぐらいの豪雨が予測されるのか、専門家の意見を聞きながら検討を進めるという回答だ

と理解している。

→(団体②住民E) 確実に全ての杭を抜いて現状復旧を進めると確約できるということか。かなり大きい機械が入ることになると思うが、そこへの環境配慮もお願いしたい。

(団体⑤住民G) 先ほど熊がたくさん出没するようになったという話があった。風車を建てた場合、より動物たちにとっては厳しい環境になるのではないかと思う。より熊や動物が人里に下りてきてしまうのではないかと心配に思う。

→(司会者) 今回はここで何かを解決していくというより、皆様がどんなご意見をお持ちか伺う機会にしたいと考えている。動植物や景観に関してご意見あればお伺いしたい。

(団体⑤住民C) 第1回中間報告会の質疑にあった周辺動物への騒音の影響に関して、六ヶ所村でのデータが揃っており、放牧されている牛への影響はないと回答されていた。そのデータをぜひHPで公開してほしい。私も一時期調べたことがあるが、適当なデータが見つからなかった。乳牛に関しては、大きな音で乳の出が悪くなるという明確なレポートもあり、心配している。惣刃の場合は、乳牛ではなく肉牛であると思うが、何かしら影響があるのではないかと考えている。文献やデータがあれば教えていただきたい。

→(団体⑤住民G) 私たち自身の勉強会もしようと、地域のお父さん・お母さん方にも参加していただいた。風力の会社が来ることによって自分たちの仕事が増えるのであれば、風力があっても良いと話された方もいる。畜産関係者の方々は、長い年月をかけて畜産を守ってきたご苦労があったかと思う。ふるさとを守りたい、畜産を守りたいという思いで今があると思う。先程、牛の値段も低く、最高の畜産の危機だというお話があった。議会では、かなりの金額が入ると喜びで計画が始まったような気がしている。私が気になっているのは、風力発電の仕掛け人は十和田市なのか、事業者なのかということである。いつも分からないまま、「真摯に受け止める」などといった言葉で濁して終わる。最初に声をかけたのは十和田市だったのではないかと思うのだが、本当のところどうなのか。風力ができれば環境が変わる。畜産関係者や土建業者、道路を望む話もあった。だが、ふるさとが壊されてまで、景観が著しく変化し、様々なところで弊害があったとしても作る魅力はどんなところにあるか。私は普段生活していてそれが掴めない。目視で見えないという話であったが、実際には四季を通じて山の木々で見え隠れすると思う。長い間、畜産の方々が守ってきた土壌を、これからの子どもたちに胸を張って風力を作ったから今の十和田になったのだと言えるのか危惧している。手を付けないでほしい。風力発電機を立てないでほしい。もちろん再生可能エネルギーに反対ではないが、もう少し違う形にならないか。事業者側は20年で撤去するという話であったが、撤去する費用で赤字が生まれ、倒産した話も聞く。大変なお金がかかると聞いている。先程、事業者は大丈夫だと言っていたが、本当に大丈夫なのか心配である。

→(JWA) クマタカであれば、これまで設立された風力発電所の周りにも生息地はたくさんあった。ご不安に対してお役に立てるよう、稼働後の影響の有無についてこれまでの確認結果もある。正しい情報として皆様にお伝えし、ご判断をいただく形でお役に立てればと思っている。音を与える乳牛への影響として、建設工事等の突発的な打設音を指摘する文献もある。また、牛だけでなく、鶏にも影響が出やすいということが分かってきている。研究が進み文献もある。正しい情報としてご提供させていただきいきながら議論できればと考えている。

→(司会者)守りたいという思いは共通していると思う。自分たちが管理をしていかなければ、残したい景観は守れないのではないかと思う。残したい景観やふるさとを守るために、地域としてどう考えていくか言語化する必要がある。自然災害や集中豪雨の話もあったが、自然の変化によって守れなくなってしまうものもある。将来的な部分を考え、優先順位を付けながら残していかなければいけないと思う。続いて文化財についてご意見ある方いらっしゃれば、ご発言をお願いしたい。

#### 【文化財について】

(団体⑫住民I)先程の件と重複するかもしれないが、今注視しているのは組合員の高齢化である。子ども・孫たちを牧場に連れていき、感性が豊かな時期に今の状況をよく見てもらう。みんなで食事をするなど、この場所の良さを伝えていく活動をしている。毎年6月12日に必ず環境整備を行い、山の神の神社に行く。一軒から1人が今までの流れであったが、できれば1軒から2人、子どもたちも連れて一緒に食事をする。良さを後世に伝えていくために絶対に必要なことである。4年程前の6月に、コスモスを植えてきた。一部だが花びらの厚いコスモスを見ることができた。秋になったらどのように変化するのか楽しみにしている。感動を自分たちの子ども・孫たちに伝えていきたいと思っている。ブナの大木に昔の人が作った案内表示が彫ってある。子どもたちにも行ってほしいが、非常に危険な場所である。皆様と一緒に残していきたい。熊が出て何かあればすぐに対応しなければいけない。それには道路整備も必要である。歴史を重んじ、皆様と相談しながら良い方向に持っていきたい。そこには予算もなければできない。

→(団体①住民D)気持ちはずごく分かるし、嬉しい。惣辺の場所は素晴らしい場所で、みんなに伝えていきたいと思っている。自然景観やこの場所が持つ力は凄いものがある。古道の見学会でもみんな感動してくださる。ただ、そこに180mの風車が建つのは似合わないと思う。惣辺の景観に対する気持ちは同じものがあると思う。私もこの問題が出てから風車を見て回ったが、180mはもの凄く圧迫感がある。展望台の後ろに180mの風車が建つというのは、子どもたちにとって本当に良いと感じられるものなのか疑問に思う。惣辺の場所が良いもので、人に紹介したいと思う気持ちは同じである。十和田古道は観光にも使えると思っている。ただ、それは風車を建ててもらってお金ではなく、景観を残す形で別の方法があるのではないかと考えている。

→(司会者)一緒に活動しても面白いのではないかと考えた6月12日のイベントは一緒にやられるのか。

→(団体⑫住民I)今でも6月12日に山で仕事をしている人たちが怪我をしないようにと、お酒を上げにお参りに来られる。ここの場所にお世話になったと来る人がいる。今、畜産農家は非常に大変な状況にある。周りでは畜産牧野組合がなくなっている。歴史は大事にしなければならないが、現状はもっと厳しさがある。両立するのは大変だが、別な方法があればご指導いただきたい。現状は前向きに進めていかざるを得ない。他の組合員からも頑張ってくれと言われている。事業者からは色々ご協力いただきたいと思っている。

→(団体①住民D)対抗する訳ではないが、畜産農家が大変なのも分かる。だが、十和田湖も大変な状況である。店はどんどん減り続け、人口も少なくなり、子どもも数人しかいないという状況である。我々は十和田湖を何とかしたいと思っている。考え方的には同じところがあると思う。十和田古道や十和田信仰の歴史は、十和田湖の魅力の一つで、地域の歴史・文化に触れること、お客さんに深掘してもらうことが重要なポイントになっている。十和田観光を復興させるために大きな可能性を持っていると考えている。もちろん周りの人からも頑張ってもらいたいと言われている。立場は別であるが目標があって相容



れない部分もあるかもしれない。その部分もお分かりいただきたい。

→(団体②住民E)新渡戸重次郎という穴堰の調査も行っている。穴堰も遺産として残したいと思っている。現状を維持させないと遺産として残せない。今ある古道も残しながら整備しなければならない。専門家の研究にも考慮した整備をしてもらいたい。将来的に古道の価値が落ちるような風車の建て方は、世界遺産登録という大きな目標の妨げになる。全くの反対ではない。考慮ができるかできないかの話がしたい。

(事業者)2つ質問させていただきたい。十和田古道 1000 年の歴史と言われていたが、改修が行われたのは 1693 年とある。1000 年の歴史は何の文献から得られるものか。もう 1 つは、鳥居があることは鹿角日誌の中に書かれているが、華表が遙拝所と言われているのはどの文献から判断されたのか。更に、遙拝所の位置が分からない。調べた中で候補として 2 箇所図面にしてみた。五戸道と七戸道が交わってすぐの所か、南東屋から少し北に行った所か。正確な位置を伺いたい。

→(団体①住民D)質問 3 つに簡単に答える。1693 年は元禄時代で、子ノ口に改修したという石碑がある。改修なので、その前から存在しており、十和田山新道と呼ばれていた。何故新道かという、元からあった道を新しく改修したから新道と呼ばれている。1693 年以前も道はあり、中世の道もある。専門家の先生によると、12 世紀後半に修験者たちによって開山された。その経緯があって千年の歴史と言っている。鹿角日誌は江戸時代のもので、松浦武四郎が鳥居があったという記述を残している。鳥居というのは華表のことであるが、鳥居＝結界を意味し、結界を超えて禊を行い、信仰を深め、身を清めて信仰地に向かう。天気が悪く、松浦は惣辺の景観を見ていない。熊野と照らし合わせて、そこが遙拝所であったという結論に至った。十和田神社はかつて熊野山十湾寺、十和田山青龍大権現と呼ばれ、十和田湖・奥入瀬・八甲田ひっくりめたものであった。霊山十和田の全景が見えるところが遙拝所である。

→(事業者)鳥居は結界なのか。

→(団体①住民D)神社でも鳥居が結界を表している。鳥居は霊山十和田の中心部に入る結界ということになる。

→(事業者)遙拝所の場所は。

→(団体①住民J)おおよその予測見解であるが、牧場内南東屋の北側かと思う。

地形図で、一番高いところが遙拝所ではないかと専門家の先生は推測されている。航空図だと難しい。

→(団体①住民D)遙拝所はおそらく牧場内のため、実際行ってみないと分からない部分もある。ただ、大事なものは鳥居を超えた先に見た景観である。それが遙拝所の意味である。遙拝所がどこかではなく、遙拝所から見た景観が大事である。古道だけ残せば良いということではなく、周囲を含めた空間を残してもらいたいということは前からお伝えしている。

- (事業者)古道に関して今後のビジョンがあれば伺いたい。牧場を作るにあたって既に改変されているところもあると思う。古道の痕跡が残っているところをどのように保全していくのか。また、五戸道は国有林内になると思うが、森林管理署等とも協議しているのか。
- (団体①住民D)保全に関しては範囲が広いため、私たちだけでできることではない。だからこそ行政の方と相談して進めていくことになると思う。
- (事業者)行政の方はどのような反応か。
- (団体①住民D)協力してくれる人もいれば、してくれない人もいる。今日の会合は3時半で終わるのか。世界遺産の話もまだできていないと思うが。
- (団体④住民K)時間通りに進めてもらうようにしてはどうか。抜ける方もいらっしゃるかもしれない。
- (司会者)16時までは延長しても良いと事業者から聞いている。

(団体④住民K)十和田湖・奥入瀬溪流と八甲田はどうしても守らなければいけないと思って活動している。三村知事の「再エネだからと言ってどこで何をやっていい訳ではない」という言葉が表している。青森県、日本の宝、世界に誇れるものだと思っている。それに関して、みちのく風力のユーラスエナジーさんが、前回の発表より29基減らして最大150基だったものが71基まで減った。6市町から十和田市を削除した。世界遺産になれる・なれないにかかわらず、青森県民として十和田湖・奥入瀬・八甲田は絶対守るという気持ちでいる。

#### 【産業について】

- (司会者)世界遺産登録や十和田古道の話にも繋がって来ると思うが、観光・畜産・林業に関してご意見のある方、ご発言願いたい。
- (団体①住民J)十和田に越してきて、独立してガイド事業を行っている。惣辺牧野に風力発電の話が出た時、悔しいと思った。惣辺の景観を見た時、十和田湖観光のこれからを作っていけそうだったと思った。それを通して地権者の方たちに利益が回るようにできれば良いと感じた。地球の問題で風力を取り入れる検討をされているのだと思う。なぜ観光において良いと思ったかといえば、今の観光は昔の観光とは違い、深い観光である。特に、滞在時間をいかに延ばすかが観光で大事になってきている。十和田湖の関連したストーリーの中で、様々な場所を回れることが、一つの観光の魅力になり、滞在時間を延ばせる策になると思う。惣辺は十和田湖から少し離れた場所で、尚且つ同じストーリーの中で語れるものである。観光ツアーを作る中で良いと感じている。確かに大型バスは難しい場所になっているが、現在、十和田湖トレイルが進められており、海外の方にも注目されるものになっている。八戸駅から十和田湖まで歩いて旅をする。友人の自転車乗りから林道はオフロードとして最高だと聞いている。林道を観光で使うことによって維持できることが示されているレポートもある。長い目を見た時、観光として使えるのではないかと考えている。風力が観光になると事業者は言うが、反対・賛成関係なく絶対あり得ないと思っている。何故なら風力はいたるところにある。風車を見に十和田に来るかと言えば来ない。風力を誰が見るかと言えば修学旅行である。修学旅行には大型バスが必要である。そのためには道路が必要である。それに加え、中間地点が無ければ成り立たない。そこまでお金を保証し、200人規模のホテルを用意できるのか。ホテルの営業回りをしても修学旅行は難しくなっている。観光に風力発電は繋がらない。

→(団体⑫住民L)個人的に風車がある風景は最先端に思える。大阪に行ったらあべのハルカスに行ってみたい。東京に行けばスカイツリーを見てみたい。惣匠に風車が建ったら真っ先に見上げたい。こんな人間もいる。できれば作ってほしい。

(司会者) 林業の課題等があれば伺いたい。

→(団体⑧住民M)どの業界もそうだが若手の労働者不足である。機械化が進んでおり、国内でも最先端だと思う。造林や下刈りは人の手でを行うことが多い。青森県内を見ると、天然林は少なく、植えられたものを整備していなければならない。今後、造林や下刈りに関して新しい技術が生まれることは難しいのではないかと考えている。

(団体⑫住民N)畜産をベースに農業の特性を活かしていきたい。40年ほど前、十和田地方は不作が続き稲作の大飢饉が起こった。稲作ではなく気象の変化を受けにくいナガイモやゴボウ等、地下茎を進んで生産するようになった。その中で開業したのが畜産事業であった。古くから牛が売れ、牛からは優良な堆肥が採れる。これが田んぼや畑に還元されて循環型農業が成り立っている。耕畜連系とも呼ばれる。現在、畜産は危機的な状況にあり、万が一畜産が衰退すれば、循環型農業が破綻する可能性がある。この機能を維持したいという希望がある。様々な方法があると思うが、それには開発行為も必要である。稲作も野菜も肥料が高い価格を転嫁できない農業の宿命もある。この機会を通してこの地方のありようを皆様に追求する必要がある。自然環境を守りたいというのは私たちの願望であるが、残念ながら我々の知っている50年前を見ても願っただけでは守れない。エネルギーも食料もグローバル化で安いものを買えばいいという考えがあるが、それが地球温暖化や異常気象を招いているところもある。私たちの願いとは別の所で、災害が発生している。50年前と全く変わらぬ環境でなくても、保持していかなければならない。保全しながら新しい時代に向かっていく。あの時代の人たちは何もしていなかったから自然災害にやられたのだと思われたくない。環境を守りながら調和のとれたエネルギー開発、国策、安心して暮らせる社会づくりを行って行くべきである。知恵を出し合って、手を取り合っていきたい。

→(団体⑫住民I)私の親戚も十和田湖で旅館を営んでいた。十和田湖や奥入瀬溪流に沢山人が来てほしいと思っている。惣匠回りで人を誘致できないかとも思うが、自分たちだけではなかなかできないこともある。良い方向に行くために一緒に手を組んでいきたい。ただ資金力が足りない。感覚の違いはあると思うが前に進んでいきたい。

→(団体①住民D)ありがたいことだが、風車ではないと思っている。十和田は本来、十分な魅力を持っているし風車の力がなくてもやっていけると思っている。

→(司会者)本日皆様にご発言いただいた内容に関しては整理を行い、今後の話し合いに繋げていければと思う。風力発電がきっかけではあったが、それぞれのご活動の話をする中で新しい発見もあったかと思う。観光という切り口では様々なご意見があった。私自身、修学旅行が十和田湖で木漏れ日がきれいだったことを覚えている。ガイドさんのお話を当時伺うことができたらもっと勉強になったと思う。

#### 【終了挨拶・事業者】

(事業者)本日はお忙しい中、有意義な機会を頂き、感謝申し上げます。今回のご意見は、課題を整理し、次回までに専門家の方に意見を伺いたい。次回もご案内させていただくので、よろしくお願ひしたい。